

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290600055		
法人名	社会福祉法人 十和田湖会		
事業所名	グループホーム らいぶ		
所在地	〒034-0093 青森県十和田市西十二番町16-2		
自己評価作成日	平成28年10月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成28年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市の中心部に位置しており、官庁街通りへも徒歩数分のため、春の桜、夏の新緑、秋の紅葉の時期には散歩に行き、四季の移り変わりを楽しむ事ができます。また、官庁街通りで行われているイベントの見学に参加できるよう支援しています。
 入居者様がその人らしい生活を送れるよう、一人ひとりに合わせた介護計画を作成し、また、入居者様・ご家族様との信頼関係を築き、家庭的な環境を作れるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

市の中心部で、官庁通りにも近く四季折々に季節が楽しめる場所に事業所がある。官庁街でよさこいや秋祭りなども楽しむ事ができる。防災対策では、市の指定場所にもなっており、炊き出しも出来るように準備が整っている。また、事業所内の食堂には畳のスペースもあり、家族も宿泊できるようになっている。全体が広いスペースで圧迫感がなく、快適に過ごすことができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議等において理念を確認し取り組んでいる。また、理念を目に付く場所へ掲示している。(廊下、台所、職員トイレ)	開設当初から職員で話し合いして作成した、アットホームで家庭的な思いで笑顔で楽しく過ごしてもらいたいという理念を掲げ、いつでも職員が目につくように、玄関やトイレなどに掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、年2回の清掃活動への参加や、地域の行事を見学や地域を散歩をしている。	町内会に加入しており、年2回の清掃活動や、年末の総会にも参加し、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等により「認知症について」の話し合いを持ったり、民生委員やご家族様、行政担当者様と情報交換をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では日頃の生活の様子(行事、ホーム内での生活)の報告や家族からの意見や要望の聞き取りをおこないサービスの質の向上に努めている。	運営推進会議は2カ月に1回開催しており、家族の参加がある。会議では、入居者の普段の生活の様子をスライドショーにまとめて報告したり、民生委員の意見等をサービスの向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での意見交換や市役所高齢介護課からの連絡等により、福祉に関する情報やアドバイスをいただいている。	市役所の担当者が通年同じなので連絡が取りやすく、インフルエンザなどの感染症対策や災害対策など、アドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についてのマニュアルを作成している。また、外部研修への参加やホーム内での勉強会をすることにより身体拘束廃止について理解の周知に努めている。	身体拘束廃止についての内部研修を行い、参加できなかった職員にもプリントを配布して周知に努めている。玄関は日中施錠せず、センサーを設置しており、夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加やホーム内での勉強会を実施することにより高齢者虐待防止について学ぶ機会を設け周知に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加やホーム内での勉強会を実施することにより制度について学ぶ機会を設け周知に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には説明を行い、疑問点について時間をかけ話しを聞き説明をしている。また、重要事項説明書の内容変更の際にも都度説明し同意のサインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等により挙げられた意見や要望については職員会議や運営推進会議の会議録の回覧により情報の共有に努めている。また、面会時には日頃の生活の様子の報告をしている。	運営推進会議で家族から頂いた意見・要望を職員会議で周知し、運営に反映している。会議に参加できなかった家族にも、会議での内容を書面で報告するために郵送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常業務に置いて職員の意見を聞き、業務改善に取り組んでいる。	職員からの意見や要望は、ノートを活用し、意見を集約することで運営に反映させている。職員の意見を管理者が本部で報告している。法人内で3か所のグループホームがあり交流会など行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個性や状況を把握し、職員が向上心を持てるよう職場環境に配慮している。いつでも職員から意見の聞き取りを行う体制ができています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議や外部研修への参加により勉強する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加や他グループホームとの交流会により、情報交換をしケアの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの要望の聞き取りや、普段の生活における「仕草・言動」の観察に努め、言葉に出来ない訴えに気がつけるよう努力している。変化に気づき対応できることにより信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決定した段階から家族と連絡をとり不安を取り除くよう努めて疑問点等に答えられている。また、担当ケアマネと連絡を取り入居後スムーズにサービスが開始できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後の本人の「発言・言動・仕草」を観察し、また、家族の意向も確認しながら必要としているケアの提供に努めている。家族からも普段と違う様子の聞き取りを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の「できる事・できない事・一部手伝えばできる事」を把握し一緒に行うようにしている。入居者同士の関係性が構築できるよう生活環境を整えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日頃の状況の報告や毎月の手紙を出すことにより状況報告を行い信頼関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域への散歩や家族に対して年賀はがきの作成をしている。また、車椅子利用者については送迎等の外出支援を行っている。	馴染みの関係が途切れないように、自宅やホテル等、家族が希望される場所まで送迎し、交流や外出の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を保つために、入居者一人ひとりを把握し関係作りに努めている。また、コミュニケーションが苦手な方に対しては職員が間に入り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した場合でも、いつでも相談を受ける事を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用し今までの生活の把握をして、これからどのような生活を送ることが入居者様に対して望まれるのかを一緒に考えている。日々の生活の中での「発言・表情」などを記録に残しケアにつなげている。	センター方式を活用し、日常生活の様子を記録し、家族からの聞き取りや生活歴からも本人の思いや意向を把握できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用し状態を把握するよう取り組んでいる。今までの生活において使用していたものなども持参されている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握し、日常生活においてどのように過ごしているかを記録に残し職員同士の情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの要望の聞き取りや職員が日々の生活を観察し気づいた事を介護計画に取り込み作成している。	面会時や運営推進会議後に家族から意向などを確認し、その後の職場会議で話し合いをしながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「発言・仕草・行動」を記録に残し、日々の変化に気がつけるよう努力している。その他、申し送りや会議等において状況の把握と情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせ受診の対応をしたり、車椅子使用者の外出時には自宅までの送迎の支援をしたりしている。入院時には衣類の洗濯等の身の回りの世話をする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「飲食店、お店、町内会」と連携を図り「買い物、散歩、食事」等を行い楽しく暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居前と出来るだけ変更はせず、今までの生活を継続できるよう支援している。状態の変化により専門医への受診も行う。車椅子利用者については受診の送迎・付き添いを行っている。	適切な医療が受けられるよう、かかりつけ医の指示を受けて対応している。車いすでの病院受診は家族対応が難しいため、事業所で対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置となっていないが、同法人の看護師等に相談し助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院への情報提供の実施。また、入院中も定期的な面会を行い状態の把握をする。退院時には病院側及び家族と連携することによりスムーズな受け入れが出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時には重度化した場合の意向を聞き取り当ホームにて「出来る事・出来ない事」を説明している。入居後も本人の状態の説明や運進推進会議等において終末期の対応について情報交換をしている。	入居契約時に、重度化した場合の対応として「出来る事・できない事」を説明している。事業所として、対応できる範囲内で支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応の勉強会を実施している。事故やヒヤリハット発生時には報告書を元に話し合い対策や今後の方針について検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回、主に夜間の火災を想定した実施をしている。福祉避難所としての指定を受けており、ホームに備え付けている炊き出しステーションは定期的に使用し災害時には職員全員が使用できるようにしている。	毎月1回夜間想定避難訓練を実施しており、消防署立ち合いの避難訓練は年に1回実施している。事業所は、福祉避難所として指定を受け、炊き出しステーションを設置しており、定期的に使用し、災害時に備えている。	運営推進会議では町内会の参加が困難で地域との協力体制が難しい面はあるが、民生委員の方の協力も得ながら町内にアプローチし、災害時の協力体制が築けるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の勉強会や外部研修への参加により「尊厳の尊重・プライバシーへの配慮」について学ぶ機会を設けて実施している。	日常業務の中で、その都度職員に声をかけている。また、朝の申し送りで全体に周知し、理念の唱和をしたり、業務を振り返ることでプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本人が思いや希望を伝えやすいような雰囲気を作り、自己決定できるよう支援している。また、うまく意思表示ができな方に対しては声の掛け方を工夫して発言を引き出せるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活歴を把握し本人のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた服装や入浴前には自分で服を選び入浴してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日等には誕生食として好みの物を提供したり、季節に合わせた食事を提供している。一部の入居者であるが、「盛り付け、食器拭き、テーブル拭き」など出来る範囲で行っている。	誕生日には、入居者の好みを聞いて食事を提供している。また、季節に合わせた食事メニューを職員と一緒に作っている。日常生活においても、簡単な作業は入居者に手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録に残し栄養管理に努めている。食事摂取についても自力摂取できるよう促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者に合わせ自力にて出来る所は行ってもらい、不十分であったり出来ない所は職員が手伝い口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の入居者の排泄パターンを記録の残し把握し、誘導・一部介助を行っている。自ら訴えることが少ない入居者についても排泄前の行動を観察し都度、誘導を行っている。	現在、オムツ使用者はいない状況である。定時のトイレ誘導や、排泄前の行動を観察して排泄の自立支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の乳製品の摂取や起床時の水分補給を実施している。また、日中の適度な体操等により体を動かしてもらい、出来るだけ自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回の入浴を基本としているが、入浴拒否がみられた場合は時間や日にちをずらしている。また、車椅子利用者についても機械浴を整備しており身体状況に合わせて入浴していただいている。	週2回の入浴を行っており、入浴の日時は決められているが、入居者のペースにあわせて時間変更している。体調不良者の方には清拭を行うなど、個別に対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明・室温・温度に配慮し休息できるよう支援している。また、昼食後やその他の時間の休息についても、本人の意向を確認して行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容を把握し、主治医の指示通りに服用している。飲み忘れが無いよう服薬後にはチェックを行っている。心身の状態の変化時には都度主治医へ報告し内服薬の変更等につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみを把握し1日を過ごしている。また、一人ひとりが活躍できる場をもうけて楽しく過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い日や入居者の体調に合わせて散歩等に出掛けている。天候が良い日などは入居者に影響がなければ業務を変更し散歩等を優先し気分転換を図っている。季節の行事でドライブ等を行い季節感を楽しんでいる。	本人の希望により、天候や体調に合わせ、個別の対応で散歩に出かけたり、近くのスーパーなどに買い出しに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的にお金を所持している方はいないが、外出時にはお金のやり取りができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をすることはないが、入居者からの希望がある場合には家族へ電話連絡をしている。年始には挨拶として年賀はがきを作成し家族へ送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホール内は季節応じた装飾を行い季節感を感じられるようにしている。行事の写真は約2ヶ月毎に張り替え入居者や家族が楽しめるようにしている。	装飾は職員と一緒に作った物を飾り、食堂やホールに掲示している行事の写真は2か月に1回張り替えている。食堂にはソファがあり、ゆっくりくつろげる空間にある。全体的に共用のスペースが広く、居心地のよい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者間の人間関係を把握しホールの席を設定している。ホールにはソファが2台あり自由に行き来し過ごしやすい居場所で過ごせるよう声を掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具等は今まで使用していたものを持参してもらっている。また、居室内には今まで自宅で使用していた物(置物・本・写真・テレビ)等を持参されている。	タンスは備え付けであるが、布団やテレビなどは、自宅で使い慣れた物を持参していただき使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の歩行状態等の心身の状況に合わせて居室の設定やホール席の配置を行い安全に実施できるよう配慮している。		